



第2回なぎなた交流会を開催

第2回なぎなた交流会が12月29日、市立武道館で開催されました。

この交流会は、選手や指導者などが、それぞれの立場で「長崎がんばらんば国体なぎなた競技会」のPRと大会の成功に向け、お互いの絆を深め相互に協力をしていこうと始めたものです。

この日は、なぎなたの選手・指導者として活躍している松浦高校なぎなた部の卒業生や帰省中の同部卒業生、なぎなた教室の小・中学生など20人が参加。交流を深め、同競技会の成功を誓い合いました。



福島町で健脚を競う

第58回福島町一周駅伝大会が1月8日に開催され、8区間24.25*₁₀で健脚を競いました。

今大会には、市内外から22チームが参加。福島港ふれあい広場前をスタートし、沿道の声援を受けながらたすきをつなぎました。上位の結果は、次の通りです。

〈総合成績〉

【町内一般】

優勝	日の浦	1時間30分37秒
準優勝	浅谷	1時間31分00秒
第3位	鍋申	1時間32分03秒
敢闘賞	土谷	(前回記録より8分8秒短縮)

【特別賞〈オープン〉】

- ①スナックアリガトウ
- ②中島走ろう会
- ③伊万里農林高校野球部



なぎなたニュース



○問合せ先 教育委員会生涯学習課
国体準備室 ☎ 311

松浦市武道始め式に参加しました

1月9日、市立武道館において松浦市武道始め式が行われ、なぎなた教室に通う小・中学生や松浦高校なぎなた部の部員などが、日ごろのけいこの様子を披露しました。



中には、なぎなたを始めて5カ月の小学生もいましたが、緊張しながらも今までのけいこの成果をしっかりと披露していました。

また、空手道・居合道・剣道・少林寺拳法・柔道の披露を間近で見ることができ、礼節や気迫など、武道を愛好する同志から多くのことを学びました。

武道を志す人たちの清々しいあいさつ、真剣なまなざしが印象的だった。
古来から伝わる伝統を頑張って伝えたいなあ～



小さなバスケット少年たちが大活躍

ミニバスケットボール競技における県内屈指の強豪チームとして、志佐小学校ミニバスケットボールクラブが県内外で活躍中。



Interview 志佐小学校ミニバスケットボールクラブ

志佐小学校ミニバスケットボールクラブ（黒川徳一郎コーチ：部員 27 人）は、県内でもトップクラスの実力を持つ強豪チーム。毎年、夏と秋に行われる県大会では、ここ 3 年間で準優勝 2 回、3 位が 3 回と安定した強さを誇っており、昨年 12 月に諫早市で開催された「第 22 回さざんか杯小学生ミニバスケットボール大会」では、九州・山口の各地から代表チームが参加する中、3 位という好成績を収めました。

チームの紹介や指導方針など黒川コーチにお話を聞きました。

※ミニバスケットボール（通称：ミニバス）とは、小学生が行うバスケットボール競技の名称です。

C この人に LOSE UP!
まつうら **輝** キラリ 人

Q チーム紹介をお願いします。

A ここ数年は、スピードを生かした走るチームでしたが、今年はさらに高さも加わり、選手個人の技術や性格も含め、非常にバランスのとれたチームだと思います。

ほかのチームと比べると上級生が少ない反面、早い段階から下級生が試合経験を積むことにより、毎年安定した強さを維持しています。

チームの約束事として「あいさつをする・靴を並べる・人の話を聞く」を実践しながら、一生懸命練習に励んでいます。

Q バスケットボールの魅力とは。

A 何と言ってもスピード感。攻守の切り替えが早く、一瞬の動きや判断がゲームの流れを左右するので、高い集中力が求められるスポーツです。

Q 指導する中で心掛けていることは。

A 子どもたちの自主性を育てること。すべてを教えるのではなく、「考える力」「判断する力」「挑戦する力」「あきらめない力」を引き出せるように心掛けています。

それから、たくさんの経験と人との触れ合いを通じ、楽しいバスケットができる環境をつくってあげたいと思います。

Q 今後の抱負を教えてください。

A たくさんの人に親しまれるチームでありたいと思います。

仲間を大切に、互いに切磋琢磨しながらチーム全体としての実力を高めていくことはもちろんのことですが、それだけでは限界があります。周囲の人たちに親しまれ、皆さんの応援や協力があるからこそ、チームはさらに力をつけ、子どもたち一人一人もたくましく成長していくものだと思います。



◎ PROFILE

志佐小学校ミニバスケットボールクラブ
現在、27 人の子どもたちが在籍しており、毎週月・水・金の放課後に約 3 時間の練習をしています。